

J P S

北九州

報
日本郵趣協会
北九州支部
平成30年5月12日
第 338 号

新昭和

第一次

15銭 前島密 1946.11.20 発行

第1版

1版の特徴
pos.96 額キズ



2版の特徴
pos.95 「5」
に点



白紙



灰白紙

pos.85 「5」下
ひび割れリタッチ



pos.85 「5」下



Pos.87、Pos.88
Pos.97、Pos.98
の変種は下と
同じ



灰白紙・狭透かし

Pos.87 日に点



Pos.97 中央下キズ



白紙・狭透かし

4種の変種は、灰白紙・狭透かしと共通し、1と3版の特徴である

Pos.88 日の下白抜け



Pos.98
左下マージンに逆点



提供：橋本たねひろ氏

第一次新昭和切手15銭の収集

橋本たねひろ

新昭和切手は、無目打の第一次、目打有りの第二次、菊花紋章なしの第三次があり、今回は第一次の15銭前島密について解説したい。

昭和21年11月20日発行された私製はがき用切手であり、さくら日本切手カタログでも、昭和透かし、同狭透かし、横透かしの3種が採録されており、この3種の収集がスタートラインであろう。

これをもう少し発展させると、昭和透かしに白紙と灰白紙があるので、4種となり、レベルアップすれば当時の低い印刷技術のため緑の刷色がかなり異なることから濃い緑、暗い緑、薄い緑と極端に少ない青緑があるので、単片でも1リーフできるでしょうし、これに定常変種を加えれば2リーフにはなるかも知れない。

単片の価格は横透かしが少々高いが、他は安価なので業者の貼り込み帳から好みに探すことができる。

これ以上となると、銘版付ブロックということになるが、用紙、透かし、刷色で収集するとかなり大変になる。

また原板がタイプ1と2の2種あり、タイプ1は96番切手の前島密の額にキズがあるもの、タイプ2は同じ96番の国名日本の「日」が「白」に見えるもので、専門収集の分野であり、実物を見ていただきたい。

終戦後のこの時代の使用済み収集は、汚い消印が多くて読める消印が少なく、また戦前の朝鮮、台湾、南方占領地などがなく、広がりがないため、かなり苦勞するはずである。

併せて急激なインフレにより、15銭という低額面は使い道がなくなっており、私製はがき以外のエンタ収集は困難である。